



- 看護学科と介護福祉コースを語る
- プロジェクト研究センター
- 研究室最前線
- 基礎ゼミⅡの成果報告
- これが私の選んだ道
- 大学院進学という選択
- 地域活動
- NEWS
- 学友会紹介
- クラブ紹介
- イベント案内
- メールマガジン案内

平成18年3月17日(金)、新潟市の朱鷺メッセスノーホールにおいて、第2回卒業式が行なわれ、袴やスーツに身を包んだ第2期生の医療技術学部189名、社会福祉学部117名が社会へ巣立ちました。

この大学でしか 学べないことを

看護学科及び介護福祉コース開設にあたって



新潟医療福祉大学
学長
高橋 栄明

看護学科、介護福祉コース新設の大きな理由は、将来的に社会のそれらの人材に対するニーズがさらに高まるためです。そして最大の理由は、「現場のリーダーとなる人材を育成したい」ことです。

今までは即戦力が重視されていましたが、これから現場で求められるのはそれと同時に「判断力」のある人材。新設された2つ

には、そのための先駆的なカリキュラムを積極的に採用しています。

本学の特色は、看護の単科大学や専門学校と違って、医療福祉の専門職を育成する分野が全て揃っていること。今はチーム医療の必要性が盛んに叫ばれていますが、何より大切なのは「チーム医療は良いことで、専門職間連携は必要なものである」というイメージを早くから身につけること。そのため学部やコースの枠を越えた科目を1年生から組み込み、看護師、介護福祉士と既存の6学科の学生がひとつのチームを作り、テーマに基づいて、共に学び、仕事をする。それぞれの専門性を考えながら患者さんに



接し、患者さんに必要なことはなにかを考えていく。各自の専門性を高めながら、チームワークを現実に学ぶことができる、これは他にはない、本学の大きな特色です。



「PBL」を取り入れた学習力、問題解決力を 自ら学べるカリキュラムです

看護学科を語る

看護師に求められる能力が、一昔前とは変わってきたといわれる昨今。今年新設された看護学科では、そのニーズに合わせた特色あるカリキュラムを実践しています。その内容について、学科長の渋谷先生に詳しくうかがいました。



看護学科長／教授
渋谷 優子

■ 今、現場で求められる看護師とは？

今まで看護師は3年課程が主流でしたが、最近は大病院をはじめ民間病院においても、大卒の看護師を求める傾向にあるんですね。というのも医療過誤や感染症など、以前のモデルでは対応できないリスクが増えてきたからなんです。病院では、もしもの時の「判断力」が看護師に求められるんですね。即戦力は3年課程でも充分身につきますが、判断力は大学である程度余裕をもって系統立った理論教育でなければ身につかない、その認識が現場に浸透してきたこともありますね。

■ この看護学科の特色はなんですか？

まず現場に適応していける実践能力をし

っかり身につけられる、基礎を重視した内容だということ。4年間の統合カリキュラムでは、保健師と看護師の国家試験受験資格がとれますし、これ以外に選択制で助産師の国家試験受験資格、養護教諭の免許がとれるコースもあります。また本学科は、他学科の生徒と一緒に学ぶ機会が多く「チーム医療とは何か」を体で学べること。しかし一番のポイントは、看護教育方法として4年間のPBL（Problem Based Learning）がカリキュラムに組み込まれていることですね。

■ 「PBL」ってなんですか？

簡単に言うと「目の前問題を、学生自らが考え解決していける思考力を育てること」

です。問題解決のための主体的な思考のトレーニングですね。

授業では、看護の事例のひとつを設定し、「それを解決する方法は何か」を考えていきます。例えば「糖尿病と診断され、仕事をどうするか悩む患者」という例に対し、病状、家族構成は？など解決に必要なと思われる情報を集めることから始めます。

ドクターは臓器や病理、専門部分にアプローチして診断しますが、看護師の場合もっと全人的です。病気が精神面や生活にどう影響しているか、総合的に判断し、その患者が自らの生き方にあう解決の方法論を見つけていく。このPBLは看護の判断能力を高め、自ら学ぶ学習法としてとても必要とされますが、看護教育で全面的に行って

いる学校は全国的にもまだ珍しいですよ。

■ 渋谷先生が思う「いい看護師」とは？

まず、技術だけでは困るわけです。経験で仕事ができるベテラン看護師も、「なぜコレがこうなのか」という根拠や科学的な裏付けに基づいて看護を安全に築にできることが必要。もちろん客観的なデータだけで

なく、看護に不可欠なコミュニケーション力も大切です。病気によって患者の体や心、生活環境にはいろいろな影響が出ますから、「この人は今どんな状況なのか」を考え、その人にとっての最良のケアを判断していく。苦しい、つらい、そんな感情も受け止めてケアができること、よく話を聞いて相手が望むケアがくみ取れること、押しつけでは

なく、相手が求めるケアに沿った看護ができるのが、いい看護師じゃないかなと思うんですが。それが実践能力につながることでですね。

実は、私も大病で入院した経験があるんです。その経験を踏まえた上で、現場の中で患者さんから学ぶ看護の大切さとは。それを教えていきたいですね。



この仕事を目指すことで 自分自身の「幅」も広がるはず

介護福祉コースを語る

「学びの場は専門学校」という印象が強い介護福祉士のコース。学部長の米林教授と岡田助教授に、なぜあえて4年制大学に新設したのか、その目的、また介護福祉士に何が求められているかをうかがいました。



社会福祉学部長／教授
米林喜男



社会福祉学科助教授
岡田史

■ あえて大学に介護福祉コースを新設した理由はなんですか？

米林 一番の目的は「介護全体のレベルアップ」です。確かに介護福祉士の資格は2年制の専門学校でも取れますが、今後さらに介護のニーズが高まるであろうこと、そして今後の介護対象者たちの知的レベルを考えたとき、より専門性の高い知識や技術を持った人材の必要性を感じたからです。大学で4年かけて学ぶことで、的確な「判断ができる」人材、リーダーとなりうる人材育成を目標としています。

■ 「判断ができる」という意味は？

米林 私は長年医師教育に携わってききましたが、医療教育は「知識」、「技術」、「態度」の三つがバランスよく教育されて、初めて評価されるんです。授業では知識や技術は徹底して教えますが、やはり職業的態度や使命感がなければ本当のプロとはいえない。大学に介護福祉コースを置く意味は、関連職種を養成する他学科と交流することで、幅の広い教養を身につけるとともに、人間には違いがあることを学んで欲しいからです。また知識があっても判断できない人はダメ。「この患者さんにはこれがいいのでは」という的確な判断ができるようになるには、

患者さんの置かれた状況を掴む感性、知恵、つきつめると人としての「品格」が必要なんですよ。

岡田 介護が「できる」とは、「全人的な支援ができる」こと。それには態度のなかにきちんと自分の「学び」を込めて表現出来ることが大切です。

米林 だからこそ、学生のみなさんには最初から「介護」だけにフォーカスをしぼらず、多くのものに興味を持ってほしい。最近は学生の読書量も落ちていますから、読むこと、書くこと、話すこと、その前にまず「考える」こと。これも徹底してトレーニングしていきますよ。

■ このコースの特徴は？

米林 まず社会福祉士と介護福祉士の国家資格取得、ダブルライセンスを目指すカリキュラムです。また即戦力を身につけるため、実習は特に厳しいですよ（笑）。

岡田 技術が身につかないと介護はできませんから、頭での理解だけでなく、実際に「できる」ことを目的に、実習にはみっちり時間を当てます。授業で学ぶとともに演習や実習を通して、できない部分はくりかえし、確実に体に覚え込ませます。他にもキネステティックなど、私が現場で取り組んできた新

技術もどんどん教えたいと思っています。

米林 IT同様、介護の技術も日進月歩。それを伝授したいと考えているんですね。

■ 介護福祉士という仕事については？

岡田 介護福祉士は、平成元年にできたばかりの資格ですけど、たった17、18年の間に、介護に対する価値観は大きく変化しましたよね。その中で自分も介護の仕事をしてきて感じたのが「これは自分の人生と重ね合わせて生きていける、非常にいい仕事だ」ということ。この部分も学生に伝えていきたいと思っています。

米林 日本の4年制大学で介護福祉コースを置いている学校は、実は少ない。だからこそ先駆的な試みをどんどん取り入れ、日本の介護の先駆けとなる人間を養成したい。海外の介護先進国とのシンポジウムなども企画し、国際交流も積極的に行います。将来的には国際的な視野を持った介護福祉士を育てたいですね。

岡田 介護って狭い世界のイメージがありますが、実は国際化の時代。介護が一番早く制度化されたのはドイツですが、現在一番進歩しているのは日本です。ここで学んだ学生たちが、将来指導者として海外へ、という展開もあるかも知れません。

プロジェクト研究センター

「プロジェクト研究センター」は従来の学部、学科の枠を超えて、新たに設けられた「研究推進機構」という独立した枠組みの中に設置されるものです。“プロジェクト”の名前が示すように、この研究センターは本学教員のみならず、国内外から広く研究者が参画できる仕組みとなっており、主として学際的な共同研究を推進するために時限を設けて設置され、先端的、今日的な研究テーマに機動的に取り組める研究組織と言えます。また、学外との共同研究、委託研究や外部資金の受け入れに柔軟かつ敏速に対応できる仕組みになっていますので、優れた研究成果が得られ、その成果が発信されることに大きな期待感が寄せられます。現在「地域包括ケア研究センター」「介護予防研究センター」「転倒予防研究センター」が設立されています。

本誌「QOLサポーター新潟」では、今後、各研究センターの紹介を順次掲載していきます。今回は「地域包括ケア研究センター」を紹介いたします。

組織図

〈新潟医療福祉大学〉



新潟医療福祉大学 研究推進機構 地域包括ケア研究センター

地域包括ケア研究センター長
米林喜男



現在、私達日本国民を取り巻く環境は著しく変化しています。保健医療福祉分野においても例外ではありません。例えば(1)急速な出生率の低下に伴う高齢化の進展により、14年後の平成32年(2020年)には4人に1人が、44年後の平成62年(2050年)には3人に1人が65歳以上である超高齢社会を迎えること、(2)感染症などの急性期疾患が激減し、その一方でがんや循環器病などの生活習慣病が増加するなど疾病構造が大きく変化したこと、(3)さらには生活習慣の変化に伴い各個人の健康に対する考え方が多様になっていることなどがあげられます。では、このような保健医療福祉を取り巻く環境の変化に対応していくためには、どのような方法があるのでしょうか。その方策の一つとして、“地域包括ケア”という考え方があります。

皆さんが住んでいる地域には、医師、歯科医師、保健師、助産師、看護師、作業療法士、理学療法士、義肢装具士、言語聴覚士、管理栄養士、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士など多様な専門職の方々がいるのをご存知でしょうか。これまで、これらの専門職が私達の病気や体の異常に対して別々に保健医療福祉サービスを提供することにより、症状や異常の除去・軽減を図ってきました。

しかしながら、生活環境が著しく変化している今日では、こうした個々別々の保健医療福祉サービスの提供体制のあり方は変革を余儀なくされています。すなわち、単に病気や体の異常の除去・軽減のみに着目するのではなく、その人の生活や人生との関わり、そして個人の尊厳をも考慮した包括的な保健医療福祉サービスの提供が求められはじめています。

具体的な方策の一つとして、各個人の日々の健康増進をはかる第1次予防から病気や障害の治療といった第2次予防、そしてリハビリテーションといった第3次予防を一貫した形で提供することが考えられます。つまり、個人のニーズを反映した、いわゆるテーラーメイドの保健医療福祉サービスの提供と考えることもできます。そのためには、これまで別々に提供がされてきた保健医療福祉の各サービスについて、保健・医療・福祉の専門職間の連携をもとに、連続的で効率的な保健医療福祉サービスの提供を図ることが必要であり、これを可能とするのが、“地域包括ケア”なのです。この地域包括ケアの実態とその問題点、そしてあるべき地域包括ケアのモデル構築などを研究するのが、新潟医療福祉大学研究推進機構地域包括ケア研究センターなのです。

第2回 国際シンポジウム開催

2月24日(金)、オーストラリアのサザン・クィーンズランド大学との高齢化対応策連携・研究協力についての覚書を締結しました。



これに合わせて国際シンポジウムが開催されました。本シンポジウムは、地域包括ケア研究センターが主催する第2回目の国際シンポジウムで、「高齢化社会における保健医療福祉のあり方」と題して地域包括ケア研究センターの客員研究員でもあるオーストラリア

のサザン・クィーンズランド大学のジェフリー・ソアー助教授、韓国の延世大学医療福祉研究所の南銀祐教授、兵庫教育大学大学院の佐々木正道教授から、シンポジストとしてそれぞれ問題提起をしていただきました。

講演終了後には、3名のシンポジストによる問題提起について、国内外の研究者や学生らが活発に意見交換を行うなど、非常に有意義なシンポジウムとなりました。



スポーツマネジメントコース

平成12年に策定された文部科学省の「スポーツ振興基本計画」の中において、生涯スポーツ社会の実現に向けた地域におけるスポーツ環境整備のための重点施策として「10年間（2010年まで）に、全国の各市町村において、少なくとも1つは総合型地域スポーツクラブを作る」という目標が掲げられました。現在、全国に約2800ある自治体が、NPO法人を作るなどして新規事業としてのクラブづくりを行なっています。

また、近年、生涯スポーツ社会の実現に向けて、民間スポーツクラブ、プロスポーツクラブ（例えばJリーグ）、それに伴う様々なスポーツビジネスが発足し、欧米のようなスポーツを日常生活に取り入れた豊かなライフスタイルを実現している先進国にキャッチアップすべく日本の社会が変革してきています。これらのクラブや産業においては、スポーツの経営学的な側面や文化的な側面に着目したスポーツマネジメントに従事するプロフェッショナルが求められてきています。本学のスポーツマネジメントコースでは、このようなスポーツマネジメント能力の力量形成の研究と実践的な教育を行います。

実践的な教育では、マネジメントの構造論や機能論、組織風土といったスポーツマネジメントの知識や理論の習得は当然ですが、暗黙の知としてのマネジメント能力を研究開発しながら実践としての教育に活かします。これまで職人わざとして、その人の身体にしか宿らなかった経験やカンといった伝承不可能であったマネジメント能力を掘り起こしながら、スポーツ事業を創造できる人材の育成と研究開発を行います。



Welcome to the world of English language

On behalf of all the teachers of English I would like to welcome you to our English classes.

At Niigata University of Health and Welfare we have several excellent bilingual Japanese teachers who teach English, and we have several very enthusiastic native teachers.

All of us are here to help you with your English language needs.

I know, maybe some of you may say something like; as my major is different, why do I need English? To answer this question let me give you just Three (out of many) reasons for continuing English at the university level.

1. Let me remind you that usually under the Japanese education system most of students study English language throughout their 3 years of junior and 3 years of senior high schools. Now ask yourselves if it wouldn't be a pity and a waste of time to forget all what you have learnt in the last 6 years?
2. Knowledge of English improves your vision of the world and gives you a different prospective and ideas about what people are like somewhere else. It also gives you a freedom to travel outside Japan. Simply speaking, with the knowledge of English the world is yours.
3. Finally, learning a foreign language will improve your overall communication skills. Not only the English level skills, but the Japanese language skills as well. This is because very often you will be required in your class to think how to respond to written or spoken language.

Our English language teachers here are ready to help you to acquire English in a simple, practical and easy way. Only what you have to do, is to be willing to learn, willing to participate in the class as often as you can, and to do your best. Nothing is impossible. If you only think you can do it, then you will be able to do anything you want. Nobody will be able to stop you, and you will succeed with time.

Mark Surma
Lecturer



外国語教員
スーマ・マーク

基礎ゼミⅡの成果報告

「基礎ゼミ」とは、1年次に全学科全学生が履修する本学の特徴的なカリキュラムのひとつで、7～8人程度の小グループによるゼミナールです。

1年次の前期に行われる「基礎ゼミⅠ」では、健康で充実した大学生活を送るためのベーシックな能力を育むことを目的とし、大学における学習についての知識・技法を習得し、自ら学ぶ姿勢を養います。また、コミュニケーションスキル（読み方、書き方、聞き方、話し方）を身に付け、社会に貢献する将来への足がかりとします。

後期に行われる「基礎ゼミⅡ」では6学科の学生が混成で学び、各ゼミ内で1つの研究テーマを決定し共同研究の成果を発表します。

こうした一連の作業の中で、学科間（目指す専門職間）の枠を越えて相互に交流・協力し合うことにより、チームの一員として問題解決に参加する基礎を養います。

「基礎ゼミⅡ」全体発表会

1月11日(水)に、「基礎ゼミⅡ」のグループ代表による全体発表会がありました。基礎ゼミⅡは60ゼミあり、各ゼミで研究テーマをみつけ、研究のまとめとしてポスター発表と7グループに分かれてPowerPointを使用しての口頭発表を行いました。各グループでの発表から学生と教員による評価を得てグループ代表ゼミを選出しました。

「お菓子な魔法～苦手な食べ物を克服しよう～」「まじほぐれたし」「音楽療法について」「ストレッチの効果」「Wheelchairを知っとるけ?」「The Banana」「ディズニーランド」という各グループ趣向を凝らしたタイトルのもと、不人気野菜（ピーマンやにんじんなど）を使用したクッキーの味の調査や、障害を持った方や高齢者が気軽に楽しむことのできるオリジナルのスポーツ実演と効果発表、音楽療法の歴史とリハビリ手法としての効果についての研究、またバナナの皮は本当に滑るのか? といったユニークな発表まで、まさに学科の枠にとらわれない、学生の自由な発想と好奇心にあふれた研究が次々と発表され、会場は拍手喝采でした。

発表の最後には、高橋学長から、ポスター発表と全体発表の講評をいただき、専門職者を目指す1年生にとって、ゼミ内での協力やチームワークの実践に必要な基本的な技術・態度を確認することのできる有意義な発表会となりました。



基礎ゼミⅡテーマ一覧

食おうリッチにお得に安く
僕と私の血液型
お茶の不思議ー紅茶のもつパワーについてー
Wheelchairを知っとるけ?
車椅子バスケット・健常者と障害者の架け橋～愛のあるバス～
自分が災害に遭ったときに役立つ情報ー非常食の視点からー
ラーメンの力
郷土料理について
病院食について
人気のあるカップラーメンの共通点を探る
方言（と「なまり」）
女性のスカート丈について
夢
あるあるダイエット
好かれる顔の条件
おでんについて
The Banana
サプリメントの効果について
車の普及する大学
納豆の実験
諸外国の音楽療法
ディズニーランド
色が人に与える影響について
チョコレートの秘密
みんなが気になる他の学科
おいしいメロンパンが食べたい!
体の不思議～関節・あくび・しびれ～
世界の中心で方言を叫ぶ
私のふるさと　ここが違う
味噌と郷土料理
お菓子な魔法～苦手な食べ物を克服しよう～
スポーツドリンク～健康との関わりについて～
学生が選んだ新潟のラーメン店
お風呂の効果
水中運動の誤った認識
水中スポーツ～手足が不自由な人たち～
ソフトバトミントン
まじほぐれたし
楽してダイエット
THE・ストレッチング
太脚と細脚
初心者のための車椅子バスケットボール
障害者スポーツの世界
車椅子バスケットとバスケの関係
酢の効果
障害者スポーツの今
クイズ解答と賞金獲得のこつ
QOLとアロマテラピー
コンビニ調査
温泉について
音楽療法について
あなたの夢調べちゃいました
血液型と性格
コンビニのおでん
ストレッチの効果
音楽と性格の関係
長寿の秘密
ピラティス
炭酸飲料が人体に及ぼす影響
安全に落ち着いて生活しよう

お菓子な魔法

～苦手な食べ物を克服しよう～

平成17年度 基礎ゼミⅡ全体発表会



理学療法学科2年
加藤健太郎さん

私たちは、栄養価の高いものであるが一般的に好き嫌いが分かるとされる食べ物の調理方法を工夫し、好き嫌いを克服することが、栄養バランスの向上を目指せるのではないかと思います。また、障害を抱えた方に限らず、全ての人に対して、食事の関心を引き起こすことが五感を刺激し、人間のQOLの向上につながると考えてこの研究を行いました。研究が完成したときに、一つの目標を協力して成し遂げた達成感と共に、将来、理学療法士として仕事をするときにも、QOLサポーター同士が協力し合いながら、常に人間のQOLの向上を考え続けることがいかに大切であるかを実感しました。

研究を進める上で私たちが苦労した点は、ほとんど面識のない他学科との組み合わせのため、最初は上手くコミュニケーションをとることができずに、研究の方向性が定まらなかったことです。しかし、ゼミの研究を通じて一人一人が人間のQOLの向上という一つの同じ目標と高い意識をゼミに対して持ちながら協力し合って研究を完成することができました。

この貴重な経験をこれからの自信に変え、研究に協力していただいた多くの方への感謝の気持ちを忘れずに様々な場面で生かしていきたいと思えます。

お菓子な魔法

～苦手な食べ物を克服しよう～

それぞれの長所・短所

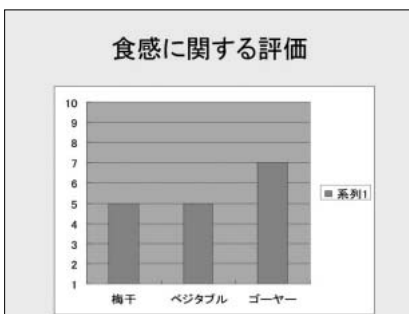
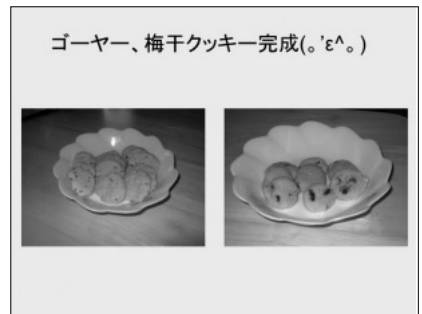
- にんじん**
長所: カロチンが多く視覚者に最適
短所: 土のおいがある
- ピーマン**
長所: ビタミン豊富で夏の日焼け防止
短所: 苦味がある
- ほうれん草**
長所: ビタミン豊富で鉄分がどの野菜よりも多い
短所: 調理しないと青臭い

目的

- 日常生活においてあまり親しみがなく、子供に嫌われるとされる代表的な野菜や独特の酸味のある食材を使い、おいしく、そして食べやすく、クッキーにして、食べにくい食材の素晴らしさを伝え興味をもたせる。

<栄養成分表100gあたり>

食品名	エネルギー (kcal)	カルシウム (mg)	カリウム (mg)	カロテン (mg)	ビタミンC (mg)
ゴーヤ	17	14	260	0.21	120
ピーマン	22	10	200	0.4	80
にんじん	37	30	240	8.6	2



- #### 苦手食材を使ったアレンジ料理
- ゴーヤーチャンドル
 - ゴーヤーサラダ
 - ゴーヤーとツナのピザ
 - ほうれん草とベーコンの油いため
 - ほうれん草のチーズあえ
 - にんじんシャーベット
 - ほしえびとにんじんのムース

まとめ

- ・総合評価の点からベジタブル、ゴーヤーが優れていましたが班員の中ではベジタブルが好評でした。
- ・苦手とされる苦味や独特のにおいも消しつつ、味や食感もいかされていた。
- ・班員の中でも梅を嫌う班員がいましたが、このクッキーなら食べれることができる。

※発表資料より抜粋

これが私の選んだ道

Fresno City College 留学生 横田裕文さん (2004年度 理学療法学科卒業)

アメリカでPT (理学療法士) の教育を受けることと、PTとして働くことを目指して留学を決意しました。臨床や研究分野で必要とされる生きた英語やコミュニケーション能力を身につけ、技術や考え方など、両国の良いところを吸収し、橋渡しをできるようなPTになりたいです。

現在は留学先のFresno city collegeで、理学療法学修士課程出願の必須科目を履修しています。月曜から金曜まで、朝10時から夕方5時までクラスがあります。課題等とても忙しいのですが、現地学生との交流など、とても充実した時間を過ごしています。

卒業してから、新潟医療福祉大学では、本当に素晴らしい先生方と仲間達に恵まれたとつくづく思います。恵まれた環境の中で、自分なりの夢や目標を持って、学生生活を目一杯楽しみつつ一生懸命勉強してください。学生時代に楽しんだことや努力したことは大きな糧になるはずです。

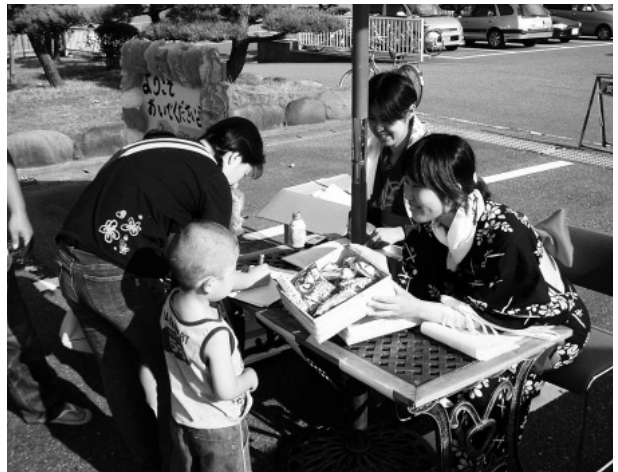


社会福祉法人 桜井の里福祉会 ソーシャルワーカー 豊田めぐみさん (2004年度 社会福祉学科卒業)

私は特別養護老人ホームにソーシャルワーカーとして勤めています。8時半から17時半まで、利用者様と話をしたり入所の申し込みに来られた方の相談に応じたりといった業務をしています。相談の仕事は簡単ではありませんが、毎日が充実しています。

4月から仕事を始めてもうすぐ一年ですが、自分には足りないものがたくさんあると感じる一年でした。人の思いを受けとめること、その思いに応えること、自分の考えを伝えることなど課題は山積みです。それでも、「私に相談したい・相談してよかった」と思ってもらえるようになることが私の夢です。

働き始めてから、慣れない環境・初めての仕事で自分の中のゆとりをなくしていきがちでした。そんなときに大学時代の仲間が支えてくれました。より良い仕事をするためには勉強も大切ですが、友人をもつことや大学時代のネットワークも大切だと思います。



とやの中央病院 言語聴覚士 小出佳央理さん (2004年度 言語聴覚学科卒業)

私が大学を卒業してST (言語聴覚士) として働き始めて、10ヶ月が経とうとしています。ようやく仕事の流れに慣れ、今自分がSTとして何をすべきか考えるようになりました。病院の他に2つの老人施設に勤め、失語症や構音障害を呈した慢性期の患者様への言語訓練、そして特に老人施設において、入所者の方のQOLを高める為のレクリエーションへの介入が主な仕事となっています。実際働いてみると、一对一の訓練だけでなく、訓練室以外で患者様のQOL全般に関わっていく事も重要だという事が分かってきます。長く入院・入所している方が多い私の職場では尚更です。後輩の皆さん、これからSTに求められる仕事は多様化していくと思われます。今は幅広い知識を身につけ、どのような勤務先でも対応できるような土台を築いていってほしいと思います。私も求められる仕事に対して誠実に対応していけるSTを目指し、今後とも精進していこうと考えています。一緒に頑張っていきましょう。



大学院進学という選択



大学院生の広い興味関心を充足させるために

大学院医療福祉学研究科
保健学専攻長・作業療法学分野長 教授

岩崎 テル子



本学大学院 医療福祉学研究科（修士課程）は平成17年度に開設されました。初年度入学者27名（保健学専攻23名、社会福祉学専攻4名）で、その内大学新卒者は8名でした。27名中25名が正規の仕事を持ち、専門職の経験年数は34年の方を筆頭に、10年以上の方が13名（48%）おります。

志望の動機を聞くと、経験10年以上の方は「振り返り、振り返り」でした。より深くより確実に新しい知識・技術を得て、自己の実践の検証とこれからの展望を切り開こうと願っています。一方新卒の院生は、学部時代に時間が無くて不完全であった研究をより充実した形で完成させ、これからの職業人としての人生を目的意識と目標を持って生きたいと願っています。

このような院生の経験と知識の差を有効に生かしつつ、幅広い興味関心を充足させるため、科目は専攻の垣根を越えて受講可能であり、一方的講義ではなく学生の問題提起と討論が主体となります。もっとも基礎科目の研究法は講義と演習が基本です。経済的支援としての奨学金や勤務条件に合わせた科目履修の指導も行います。進学して良かったと思って頂けるよう精一杯努力していきます。



現場から大学院へ進学

医療福祉学研究科
保健学専攻 作業療法学分野

長谷川 利夫 さん

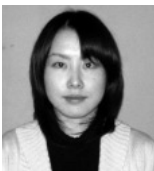


皆さんは、「作業療法」という言葉からどのようなことを思い浮かべられるでしょうか？最近では様々な「療法」の名がつくものが、皆さんの回りでも多く見受けられると思います。そのような中でも、「作業療法」というのは、何かつかみ所のないように思われることもあるかもしれません。作業療法は、脳卒中、手足の骨折などの身体障害分野、脳性麻痺などの発達障害分野、統合失調症などの精神障害分野、認知症などの老年期障害分野等、幅広い分野で実施されています。作業療法では日常活動の諸動作、仕事、遊びなど人間の生活全般に関わる諸活動を「作業活動」と呼び、治療や援助もしくは指導の手段としています。皆さんは今までの人生の中で、自分にとって興味や意味があると思う作業を行う事で、それに夢中になったり、何か以前より元気に、健康になったというような経験をした

事があるのではないのでしょうか？作業療法士はこれらの中から対象者に最も適切な作業、治療法を選択、実践していくのです。作業療法士は、そんな作業の持つ力を最大限生かすことのできるプロフェッショナルです。

さて、大学ではこれら作業療法の専門職としての知識、技術体系を学びます。大学院ではこれに加え、様々な職種との連携も含め更に深く、幅広く学んでいきます。本学は多くの社会人が学んでいます。臨床と大学院を往来する日々は決して楽ではない部分もありますが、その分得るものも多いと思います。様々な職場、領域で活躍する専門職の方々の学びを通じての交流は格別のものであります。

皆さんも、是非思い切って、飛び込んでみてはいかがでしょうか？



学部から大学院へ進学

医療福祉学研究科
保健学専攻 健康栄養学分野

齊藤 弓絵 さん



学部在学中、バングラデシュやラオスなど、途上国に行く機会があり、栄養不足、飢餓などの栄養状態の悪さを目の当たりにしました。初めての海外が途上国であった私にとって衝撃的な体験であり、途上国の栄養改善は国の将来を担うほど重要なことだと感じました。では日本はどのような状況だろうか？日本は先進国で、食物も豊富、栄養状態もバッチリと思いきや、飽食による生活習慣病の増加、乳幼児期の食育、高齢者の低栄養など、世代ごとに数々の課題を抱えています。今の私にできること、まずは日本での栄養改善活動を広めることだと考えるようになりました。以上の理由から、学部ではできなかった地域栄養の専門性を深めるため大学院に進学しました。また、同時に市町村栄養士として就職し、地域栄養の実践と勉

学の両立の日々を過ごしています。

私は現在、乳幼児の成長と食、虐待予防についての研究を進めています。地域では、報道されない虐待や養育放棄があり、乳幼児の食や成長への影響が懸念されます。そこで、虐待等親の状態と乳幼児の食や成長との関連を明らかにし、虐待等の早期発見によってすべての子どもが健やかに育つために寄与したいと考えています。



学生ボランティアセンター

12月6日(火)、学生ボランティアセンター設立委員会が開催され、学生ボランティアセンターが設立されました。

学生ボランティアセンター代表の水品昌代さん(社会福祉学科3年)が、代表就任の挨拶と設立の主旨についての報告を行い、その中でセンターの理念として「学生ボランティアのあり方を確立すること」を掲げ、また目的として、①学生による地域貢献および国際貢献、②学生の人的成長の機会、③ボランティア活動の質の向上の3つを掲げました。

高橋学長からは「学生諸君には、今後ボランティアを受ける側と相互に信頼関係を築きながら、自分自身のレベルアップを図り、またボランティアができることの幸せを感じて欲しい」と挨拶がありました。

ボランティアセンターでは今後、新規会員の拡大を図りながら、より積極的に活動の輪を広げていく予定との事です。



アビリンピックボランティア

9月18日(日)に開催された第2回新潟県障害者技能競技大会ーアビリンピック2005ーに本学社会福祉学科の学生13人と教員1人がボランティアとして参加しました。

競技参加者の案内や誘導をはじめ、競技種目である喫茶サービスの際のお客役や表彰式のアシスト、盲導犬の誘導などを行いました。特に喫茶サービスのお客役では、審査の大切なポイントに関わる重要な役割となるため、事前にセリフの読み合わせをするなど、競技者と共に大会に深く関わることが出来ました。

参加した学生からは「競技参加者の真剣で努力されている姿に、障害を越えて同じ人間として、感銘を受けました。楽しく、充実し、良い経験となりました」など、充実感と発見に溢れた声がかぼれ、自らの将来に向けた目標をより明確に意識する大きなきっかけとなったようです。



地域活動

レクア.コム

本学ボランティアサークル「レクア.コム部」が、財団法人 学生サポートセンターの学生ボランティア団体助成金選考委員会による厳選な審議の結果、18年度の活動について助成金を授与することが決定しました。

レクア.コム部は、将来、保健・医療・福祉の分野において、患者や利用者等との関係に責任を持つことのできる専門職となることを使命としている学生自らが、ボランティア活動による地域(社会)貢献を志し、そのプロセスを通して自己の課題を明確にし、人的成長を図ることを目的として、平成13年4月の本学開学とともに創部されました。

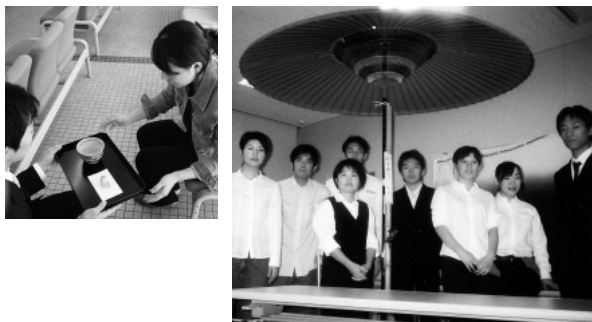
今後も、今回の助成金授与の名譽に恥じることはないよう、これまでの「ボランティア」という概念にとらわれず、幅広い実践活動を通じた「新しいボランティア観」の形成を行うべく、活動を続けていくそうです。



茶道部地域活動

本学茶道部は、裏千家茶道を学びながら、お茶会の開催や呈茶などのボランティア活動を積極的に行うなど、地域の方々や学校(小・中・高・大学)、施設等と交流しています。

これまでも、松浜商店街にて開催された「青空バザール北の楽市」で、名産品やお土産のブースに混じり大勢の地域住民の方々に呈茶をおこなったり、松浜郵便局の依頼を受け、郵便局にいらした地域の方々に呈茶をおこなったり、また、中越地震のチャリティー茶会を新潟大学茶道部などと合同で開催するなど、学外での活動を積極的におこなってきました。今後もお茶を通じて少しでも多くの人々と交流を図っていくそうです。



義肢装具自立支援学科(仮称) 開設計画中

本学では2007年4月に向けて医療福祉系大学では全国初となる義肢装具士(国家資格)を養成する、「義肢装具自立支援学科(仮称)」を医療技術学部開設する計画をしています。

この学科では、義肢装具や福祉機器とそれらを装着する方や介助される方を結びつけ、

その方の自立生活を助け、QOL(=生活の質)を高める上で必要な専門知識・技術を持った人材を育成します。

義肢装具や福祉機器を使用する方は、それらの用具等の適合はもちろんのこと、環境との適合も重要です。この学科では、従来の義

足・義手・装具などの製作に関わる義肢装具士養成のカリキュラムに加え、車いすなどの移動福祉機器、住環境整備などに関する科目も学び、義肢装具に重点を置きつつ、幅広い専門知識・技術を身につけた人材を育成する計画です。



※写真はイメージです。

海外研修旅行【アメリカ カリフォルニア州】

定期試験終了後のちょっとしたんびりした、2月20日～2月27日の8日間、理学療法学科の学生6名・教員3名、社会福祉学科の学生10名・教員3名が、合同でアメリカ西海岸へ医療福祉研修旅行に行ってきました。以前から交流のあったカリフォルニア州立大学フレズノ校関連病院・施設、カイザーホスピタルを訪問し、大学教員や日本人留学生と

の交流会及び施設見学を行いました。もちろん勉強だけでなく、時間の合間をぬって世界自然遺産の“グランドキャニオン”を観光するなど毎日楽しい発見でドキドキ、ワクワクの充実した研修旅行でした。



キャンパスツアー(入試対策講座)

10月8日(土)と11月3日(祝)にキャンパスツアーが行われました。この2回のキャンパスツアーでは、午前中に第1部プログラムとして「入試対策講座」の「推薦入試 小論文の傾向と対策」(10月8日)、「一般入試 英語の傾向と対策」(11月3日)が行われ、それぞれに代々木ゼミナール講師の湯浅篤志先生と

川わたる先生をお招きして各講座を行いました。両日県内・県外から大勢の受験生が参加し、満員の会場は先生の的確な分析と指導にメモをとりながら聞き入る熱意に溢れていました。

また、午後には第2部プログラムとして、大学概要説明や施設見学、各学科の教員によ

る個別相談や体験プログラムなどが実施され本学を始めて訪れたという参加者から、受験に向けた疑問や不安を教員に相談する参加者まで、それぞれの目的に応じたプログラムに参加し、充実した1日を過ごせたようです。



学友会

学友会長あいさつ



学友会長
長嶋健介さん

平成18年度学友会長の言語聴覚学科3年長嶋健介です。今までの学友会長は2年生が就任することになっていたのですが、学友会スタッフとして経験豊富な3年生が会長に就任した方が色々な行事やイベントを円滑に企画、実行できると考え、今年度から3年生が就任することになりました。私は前年度から引き続き会長に就任し、前年度の経験、反省を生かして、行事やイベント、また、全学生がより良い大学生活を送れるような活動を行っていききたいと思います。至らない点もあるかもしれませんが、学友会をよろしく願います。

大学祭

10月8日、9日の2日間にわたり、第5回伍桃祭が賑やかに行われました。各クラブを中心とした模擬店、発表会や各学科の紹介コーナー、また学外からは、猫ひろし様、ガッポリ建設様による体を張ったお笑いライブ。新潟医療福祉大学の特色に基づいた企画として、支え合いの地域づくりアドバイザー「うちの実家」代表、河田瑠子様に介護についてご講演いただきました。どのイベントもととても盛り上がりました。



学友会公認部・クラブ・サークル紹介

■部・クラブ

水泳部・バスケットボール部・陸上部・サッカー部・卓球部・剣道部・バレーボール部・レクア、コム部・軽音楽部・手話部日和・写真部・茶道部・吹奏楽部・野球部・テニス部・バドミントン部・準硬式野球部・コーラス部・園芸部・弓道部・短編映画自主制作部・フットサル部・少林寺部・和太鼓部など

■サークル

ダンス・ラクロス・ソフトボール・男女混合サッカー・フットサル・キネマ・フィットネス・運動学研究会・英会話団体「葵」など

受験生のみなさんへ

イベント案内

■オープンキャンパス

第1回／7月15日(土)

第2回／8月5日(土)

第3回／9月9日(土)

新潟医療福祉大学を体感できる、一大イベントです！ 大学概要説明や入試概要説明に加え、学科ごとに体験実習や模擬授業、教員や在学生に直接相談できる個別相談コーナーなど、多彩なプログラムを予定しています。

■キャンパスツアー

第1回／4月29日(土)

第2回／6月3日(土)

第3回／10月8日(日)

第4回／11月3日(祝)

第5回／12月9日(土)

大学概要説明、入試概要説明はもちろん、施設見学、個別相談コーナー等充実のプログラムを用意しています。また、学外から講師を招いて看護・医療・福祉・健康系総合ガイダンスや小論文対策講座など各回毎に違った趣向を凝らしたプログラムを計画していきます。

メールマガジン案内

Eメールアドレスが無くても大丈夫!!

新潟医療福祉大学では月に1度、本学の様々な情報をメールマガジン「QOLサポーター新潟 (NUHW)」としてみなさんにお届けしています！

オープンキャンパスやキャンパスツアーなどのイベント情報、新設学科情報、入試情報といった最新情報や教員・学生からのメッセージ、先輩の合格体験談など進路決定や入試対策の参考になる特集をはじめ、様々な内容を予定しています。Eメールアドレスをお持ちでなくても、インターネットに接続できるパソコンがあれば、どなたでもご覧いただけます。ぜひ、本学ホームページからご登録ください。

ホームページ案内

<http://www.nuhw.ac.jp/>

(4月下旬リニューアル予定)

<http://www.nuhw.jp/m/>

(携帯電話からはコチラ)

新潟医療福祉大学の情報が満載です。新着情報やイベント情報などを随時更新していきます。ぜひご覧ください。資料請求、イベント参加申込み、メールマガジン登録等もこちらからどうぞ！



新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市島見町1398番地 TEL025-257-4455(代) FAX025-257-4456

URL <http://www.nuhw.ac.jp/> 携帯サイト <http://www.nuhw.jp/m/>

【入試事務局】TEL025-257-4459 E-mail nyuusi@nuhw.ac.jp

誌名「QOLサポーター新潟」の由来 世界一の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同様に、「生活の質、Quality of Life, QOL」を豊かにすることが、益々重要になっております。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する(サポーター)人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様へ本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。